

都名所図会

「都名所図会」（都の名所図の意）は、京都とその周辺の旅行案内書として1780年に出版されたシリーズです。このシリーズは人気を博し、京都と江戸（現在の東京）を結ぶ交通路である東海道や、現在の三重県にある伊勢神宮の図入りガイドといった、多くの類似の作品が生まれるきっかけとなりました。「都名所図会」にある「名所」は、文章と詳細な図の両方を用いて説明されており、その多くが鳥瞰的な視点から描かれています。これは、仁和寺などの紹介されている名所を見渡すことができるような物理的な場所がほとんど無かったことを踏まえると、特筆すべき点です。そのため、絵師たちは想像力に頼らざるを得ず、バランスや詳細が分からない箇所には雲を描くことが多々ありました。この手法は仁和寺の図でも用いられており、桜の季節の境内を描いています。桜の木の下で行楽をする人々の姿が描かれていますが、これは、現代でも毎年春になると日本各地の公園で見られる光景です。ガイドブックとしては、当時の仁和寺の桜の生えている範囲や素晴らしさがやや誇張されているようにも見え、当時はもう少し狭い範囲に限られていたと考えられます。